

戦争の恐ろしさ、平和の尊さを次代へ伝えよう

親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー

町と町教育委員会は、戦争の悲惨さと無益さを知ってもらい、平和の尊さについて親子で学んでもらおうと、七月二十六日に「第十五回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー」を開催しました。

戦後世代が増え戦争体験の風化が進む中、その教訓の継承が平和行政の大きな課題となっています。



日西原村役場跡跡

時の村民の約半数を失うというつらい経験から、基地も核もない平和で豊かなまちづくりと美しい郷土、すばらしい地域文化を子孫に引き継ぐことを使命とし、昭和六十年十二月に「非核反戦平和都市宣言」を決議しました。

を助ける、この「親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー」を行っています。今回の同ツアーには、約五十人の町民が参加しました。また、沖縄県観光ボランティアガイド友の会の皆さんが案内を務めてくれました。

参加者は西原の塔で戦没者の冥福を祈り、一分間の黙祷と献花を行った後、西原での戦闘状況などについて説明を受けました。また石原に残る

無数の弾痕に艦砲射撃の威力のすさまじさを感じていました。

その後、南風原陸軍病院や糸数壕、平和記念公園などを訪ねました。糸数壕では懐中電灯を消して当時の暗闇の中で住民の避難生活を想像し、戦争の悲惨さを実感しようとした。

親子で参加した宮平淳さん（三十七歳）は「地元の人として西原での戦争の悲惨さは説明されてはじめてわかる。親として、子どもに平和の尊さを伝えていきたい」と感想を話してくれました。



高数壕で明りを消し当時のようすを疑似体験する

出発式で翁長町長は「五十七年さかのぼると、いかに戦争が悲惨であったかが実感できると思う。平和の尊さを引き継いで二度とあやまちを繰り返してはいけない」とあいさつしました。



小波津の陣地のある石原

事業説明会の開催について

図書館建設だより

西原町図書館建設事業は、現在、図書の新書、発注や図書館管理システムの検討、用地取得準備等の業務を進めています。図書の受け入れも来月から始まります。工事に向けて、実施設計も年内に策定する予定です。開催に向けて、一歩一歩進んでいます。

説明会では、これまでの事業経過や基本設計の概要などを説明する予定です。



図書館づくり懇話会（平成10年10月26日）

町史だより

旧暦の六月二十五日（現在ではその近くの日曜日）には各地で綱引きが行なわれます。綱引きは豊年子祝と、害虫駆除を祈願するために行うといわれています。町内でも幸地、榎原、小那覇、我謝、小波津、只尾、津花波、小橋川、内間、嘉手却で現在も綱引きが行われています。

本すつ束ね、縄で締め上げます。これを二体つくり、それぞれの中央部を軸にして、マチジナ（巻綱）で巻いていきます。最後にそれぞれにティーンナ（手綱）を二本結びつけ、ミニンナ（巻綱）とラウナンナ（雄綱）の完成です。

いよいよ綱引きが始まります。ミニンナにラウナンナを入れ、直径約十センチ、全長およそ一・七メートルのカヌチ（棒）が入ったつたつの綱がひとつになった瞬間、一斉に引き始めます。大人から子供まで、みんな綱を引き、周りでは銅鑼や法螺貝、太鼓を鳴らして応援しますが、今年では二回引きますが、今年は東と西がそれぞれ一回ずつ勝ちました。